



日本の悠久の歴史をひもとけば、そこにはわが国を支えてきた「なでしこ」たちの存在があります。福岡の人気歴史家・白駒妃登美さんに、そんななでしこたちの知られざる歴史物語を紹介していただきます。

博多の歴女 **白駒妃登美**

命懸けで使命を果たそうとする和宮の切なる思いが、胸に迫ってきますね。

身は武蔵野の露と消ゆとも  
「惜しましな 君と民との ためならば」

### ＊身は武蔵野の露と消ゆとも

結婚とは、自分が生まれ育った環境と違う、新たな習慣や文化との出会いでもありますが。料理の味付けから家事の手順まで、日常生活の違いに戸惑う女性が多いでしょう。徳川十四代将軍・家茂に嫁いだ和宮もその一人です。

## ——将軍に嫁いだ皇女和宮

# 君と民とのためならば

実はこの縁組みには、和宮から条件が出されていました。「御所風儀」、服装や髪型など公私の全てを御所風にし、武家の風習には従わないというものです。大奥の女性陣、とりわけ大奥を取り仕切る天璋院篤姫（前将軍・家定の正室）の心は、穏やかではなかったはず。

その大奥に激震が走ります。江戸城に入った和宮が、姑となる篤姫に宛てた進物に「天璋院へ」と、敬称もなく名前が書き捨てられていたのです。確かに朝廷の官位でいえば、内親王の和宮は征夷大將軍の家茂や篤姫より位は高きはあったのですが……。火花散るなかで迎えた両者初対面の日。篤姫は上座につき、和宮はその左脇の下座に案内されました。官位は和宮が上ですが、当時は長幼の序が重んじられ、その感覚でいけば嫁は当然、姑の下座です。それは、和宮が初めて味わう屈辱でした。その夜、自室で声を忍んで泣いたと言われます。失意の和宮を救ったのは、夫の存在でし



和宮 江戸幕府14代将軍・徳川家茂の妻。  
(静寛院宮、1846-1877) 仁孝天皇の第8皇女。墓所は芝増上寺

【イメージイラスト】  
アオジマイコ